

—我孫子の景観を育てる会—

景観あびこ

景観シンポジウム特集

第4回景観シンポジウムを終えて 佐多英昭会長

景観シンポジウム開催について、企画会議を持ったのが平成14年5月であった。今回は市と市民団体とが、主催や協賛団体となり、合同で協力し合うことでの開催となり、「美しいまちなみ景観をつくる」をテーマにした。市民団体として初めて企画から参加、シンポジウムの他ワークショップを組むことにした。ワークショップでは、あびこウォーキング、手賀沼クルージング、あびこバスツアー、パネル展示、ビデオ上映と多面的に我孫子の景観の現状を知ってもらう内容を盛り込んだ。このワークショップのつづきで、シンポジウムにつなげて、景観問題を考えてもらうように流れを作った。

準備段階では、入手可能な資料集めや幾度となく現地調査を繰り返し、配布資料のまとめに時間とエネルギーをかけた。

その結果立派な内容のものが出来上がった。市と市民団体とが、一つの目標に向かって惜しみない努力のおかげで出来た結果となった。

お蔭様でパネル展示やシンポジウムに多くの市民の関心を集め盛況を収めることとなった。

これからのあびこのまちの景観のあり方についてもっと多くの市民が関心を払い取り組んでゆくことが望めます。無関心の中からは決してよい結果は得られません。

調和のとれたまちを目指して、市民がそして市が各々の働きをして、まちづくりに取り組みましょう。これは終わりのない取り組みです。

これまでご尽力くださった関係各位に心からお礼申し上げます。



手賀沼

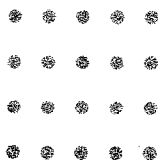


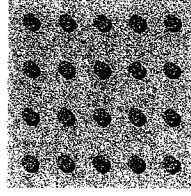
平成15年度総会のお知らせ

日時 平成15年4月19日(土) 10時~11時
場所 我孫子市役所分館2階大会議室

目次:

景観シンポジウムを終えて①	
景観シンポジウム報告	2・3
ワークショップの報告	4~6
担当者から一言	7・8
シンポジウムの反省	8





第4回景観づくりシンポジウム報告

高橋 正美(会員)

12月7日(土)、我孫子の「生涯学習センター」アピスタにおいて、我孫子市と景観を育てる会主催により、第6回景観賞表彰式、第4回景観づくりシンポジウムが開催された。

併せて、ワークショップとして、バスツアー、手賀沼周遊クルージング、パネル展示、ビデオ上映など多彩な行事が催された。

第6回景観賞表彰式

13時から、アピスタホールにおいて、第6回景観賞表彰式が開催された。今回22件の応募の中から、景観賞は「かじ池亭の建物・池・遊歩道」、景観奨励賞には「世界で一番小さな蝶々園(あおむし君のおうち)」がそれぞれ選ばれた。

表彰式は、はじめに福島市長のお祝いの言葉があり、次いで市長から、受賞された渡邊照男氏(家事池亭代表取締役)と菅野みどり氏(蝶々園主宰者)に表彰状と記念品が贈られた。また、推薦者として、当会佐多会長と小学生に記念品が贈られ、審査委員長の梶島邦江氏の講評があって、式は滞りなく終了した。

なお1階ロビーでは、景観賞受賞の写真のパネル展示があり、多数の来館者が見入っていた。

第4回景観シンポジウム

基調講演「美しいまちなみ景観をつくるために」千葉大学工学部助教授・宮脇勝氏

13時40分から同ホールにおいて、宮脇勝氏による基調講演が行われた。宮脇氏は、都市計画・都市デザインを専門として、特に環境に配慮した参加型まちづくりを実践されている。講演のポイントとしては①景観条例とまちづくり、②水辺の景観整備事業、③市民参加と環境形成、④屋外広告物と郊外開発、⑤色彩コントロール、以上5項目についてスライドを写しながら分かり易く講演された。その要旨は次の通りである。

「我孫子の景観は、手賀沼によって代表される。湖沼の景観景観条例が施行されている例としては、琵琶湖と宍道湖があげられる。

琵琶湖のある滋賀県では、1985年、全国に先駆けて景観条例を制定しており、例えば湖の水面から高さ10m以上の建物は建ててはいけないなどの制限をしている。

島根県の宍道湖の場合は、水際景観ゾーンとして5つのゾーンを設定、景観に配慮している。

我孫子市の場合は、景観条例の内容はかなり進んでいると思う。ハケの道や生垣などの景観は美しい

ものの一つである。しかし景観上改善の余地があるものも見られる。例えば布佐の調整池の周辺は、自然を生かし、よく整備されているが、池の周囲をフェンスで囲んでいるのは防災上とはいえ景観上どうであろうか。

景観の重要なファクターとして色彩計画の策定がある。北海道の小樽市の“茶”色のように、市で統一しているところもあるが、色相を重複するのではなく、彩度と明度のバランスの色の調子を揃えることが求められるだろう。屋外広告物の規制については、公有地の場合は住民運動で、また民有地の場合は、協定を結んで改善を図るという傾向がある。」

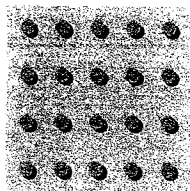
「美しいまちなみ景観をつくる」パネルディスカッション

14時40分から、同ホールで、パネルディスカッションが開催された。会場は150席ほぼ満員の盛況で、パネリストとして、宮脇勝氏、福島浩彦市長、渥美省一生涯学習センター長、斎藤啓子市景観アドバイザーがそれぞれ紹介された。

ディスカッションは渥美氏がコーディネイターとなり、パネリストが各5分程度のコメントのあと、渥美氏が各パネリストに質問する形で行われた。

その内容は、まちなみ景観をつくるに際しての他地区の例、市民参加と行政の課題等が主で、コーディネイターの軽妙な司会のもとスムーズに進行した。なかでも、福島市長から、景観を視点にとらえたまちづくりとして次のような発言があった。(要約)「平成12年、手賀沼地域を景観条例に基づく重点地区に指定し、市民団体の協力を得て調査を実施した。その結果を『ハケふれ21』としてまとめてもらった。緑地化については、斜面林保全協定(10年)を地権者と結び、市内の宅地の緑地化を推進、マンション建築の際は、空地25%緑化50%。緑地保全の施策としては、3ヶ所を買い取った。色彩についてはガイドラインを作成中である。またふれあいライン沿道については、ガソリンスタンド、レストランは今年から建設を控えるようにし、更に我孫子駅から手賀沼に至る公園坂通りを一方通行にして車道を狭め歩道を広げることにした。」

このあと、出席者から事前に寄せられた質問に対してのパネリストの回答があり、更に、会場よりダイレクトな質問への受け答えが行われるなど、会場の雰囲気は大いに盛り上がった。16時20分盛會裡に閉会した。



ワークショップ

手賀沼クルージング 9時30分、アビスタ公園口に、24名の市民の皆さんが集合、資料を配り、クルージングの目的とスケジュールを説明のあと、湖上園の観光船に乗船、約1時間にわたり、手賀沼を一周、各ポイントでそれぞれ係りから配布した資料に基づいた説明があった。途中親水広場で下船、水の館の展望台から手賀沼ウォーターフロントを観察、再度乗船してアビスタに戻り、2階学習室でスライドをみながら、改めて湖上から見た我孫子の景観について考え、チェックシートにまとめ記入した。12時、解散。

我孫子バスツアー 9時我孫子駅南口に集合、23名が参加。ツアーの内容について、我孫子ガイドクラブの協力を得て説明。バスは市内を布佐から市内を横断、布佐平和台、湖北、中野宿通り、湖北台団地、陸前浜街道、久寺家城址、つくし野と古いまちなみ、新しいまちなみをみて、美しい景観を育てるヒントを得て、それぞれのアンケートに記入、12時過ぎアビスタに到着した。

我孫子ウォーキング 9時我孫子駅南口に集合の予定であったが、雨のために中止となった。係りは、「今回のウォークは、従来の名所旧跡めぐりと趣を異にし、都市景観をメインにおき、駅前から白山・若松住宅地へと、我孫子の美しいまちなみを探る企画であった。機会をみて改めて実施したい。」と語っていた。

景観パネル展示

10時から16時まで、アビスタ2階の第3学習室、第4学習室において、それぞれ次のテーマで景観パネル展示が開かれ好評を得た。

クイズ「ここは何処？」 今の我孫子・昔の我孫子（第3学習室）室内に配置並列された4面のボードに、それぞれ写真50枚を展示。市内地図に付された場所のナンバーを写真と照らし合わせながら推理しましょうという方法で、親子づれで熱心に挑戦している姿がみられた。

「見上げてごらん街の空を」（電線地中化を考える。）（第4学習室）2面のボードに電柱やのぼり旗が林立している現場写真と、同じ写真をCGによってそれらを消去した修正写真を併列し比較したもの。電柱やのぼり旗がなかったらこんなにスッキリした美しい景観になるのか、と驚きの声をあげながら見入っている人もおられた。更に、この企画を1日で終わらせるのはもったいない、もっ

と展示期間を延長して、多くの市民にみせてほしいとの声も聞かれた。

「景観市民会議」（ハケふれ21）（第4学習室）市では、平成13年、急激な商業開発が進んでいる若松及び我孫子新田のふれあいラインを中心とする地域を、景観づくり重点地域に指定し、市民団体と協力して調査、その結果を提案書〈ハケ・ふれ21〉としてまとめた。これを展示。また景観マップデモンストレーションを実施した。

「ビデオで見る我孫子発見」

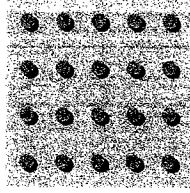
10時から12時まで、我孫子ビデオクラブにより、「我孫子空中散歩」「我孫子の四季」（各10分）を繰り返し上映。迫力ある大画面による空から見た我孫子の手賀沼と丘陵がつながる美しい景観に賛嘆の声があがっていた。

「市民参加と景観」フリートーク（工作室）10時から16時まで、「我孫子まちづくり交流会」の協力による、我孫子の景観を市民参加によって見直そうという企画である。まずアビスタ屋上から我孫子の景観を展望し、その結果をもとに、1階工作室において活発なフリートークが行われた。方法としてテーブルに広げられた我孫子市のマップ上に、ビューポイントをそれぞれマークし、意見を交換した。これに対して、パネルディスカッションのパネリスト斉藤啓子さんから、アドバイスが行われた。

12月7日の景観づくりシンポジウム開催の当日は、あいにくの小雨模様で、我孫子ウォーク中止の一幕があったが、11時30分からアビスタ内図書館前で、「50万人利用者突破記念式典」があり、市長から50万人目の利用者に記念品が手渡されるというイベントがあり、盛り上がった。

特に午後のシンポジウムは、市民参加が150名に達し、第1回開催以来最高の入場者を数えた。今回の成功のものは、市民の意欲的な協力である。特に、シンポジウム開催に先立って、12月5日夕刻、当会有志会員が、我孫子、天王台、布佐の各駅前で、「シンポジウムに参加して下さい」とゼッケン（天王台）をつけ、チラシを配った。その折「よい企画だ。がんばってください」という励ましの言葉をかけていただいた市民の皆さんに感謝したい。

最後に、今回の開催にあたって、協賛団体として、あびこガイドクラブ、我孫子まちづくり交流会、我孫子ビデオクラブ、我孫子男の井戸端会議、景観づくり市民講座2期生の5団体のご協力に対して、厚く御礼申し上げます。



ワークショップの報告

吉澤 淳一(会員)

氷雨の朝、シンポジウムは開幕した。開幕に先駆け、「我孫子ウォーキング」の中止が決定されたことは、残念ではあったが、賢明な判断であった。雨脚が強まる中、「手賀沼クルージング」と「我孫子バスツアー」はそれぞれ出発した。

「我孫子ウォーキング」は、

- ・ 区画整理が完成し、我孫子におけるもっとも新しい商業地区として誕生した、[我孫子駅、南口駅前]の公園坂通り
- ・ 嘉納後楽農園から変身した、計画的住宅地として古い歴史を持つ[白山のまちなみ]
- ・ 手賀沼の埋め立て造成地に、碁盤の目のような区画を持つ、比較的新しい住宅地[若松]の3箇所をウォッチする計画であった。

それは、駅前の景観を考察し、新旧の住宅地とそこを結ぶハケノ道の景観と歴史を、考察しようというものであった。

雨による中止で、参加希望者にウォッチしてもらうことは出来なかったが、当会と「あびこガイドクラブ」による、数回のテストウォークにより、考察のポイントが纏められたことは収穫であった。

今回は、アピスタが中心に置かれていたため、コース設定に制約があったが、今後のまちなみウォッチングでは、広く東西にコースを求め、考察していくことが確認された。

「手賀沼クルージング」は、

背丘面水の我孫子の台地と、ウォーターフロントを、自然と開発、水辺とまちなみの観点から考察すべく、実施された。生憎の雨で、遠望は十分ではなかったが、根戸・船戸の森から岡発戸新田の葦原に至る景観を熱心に観察した。

船は「湖上園」の遊覧船を使用した。

参加者は、基調講演の宮脇助教授の参加も得て、総勢24名(男性14名、女性10名)で、21枚のチェックシートが回収され、貴重な情報を得ることが出来た。このことは、今後の活動に大きな収穫であった。[自然項目]は地域毎に優劣はあるものの、「良い」の評価が中心であった。

[建物項目]は概ねマイナス評価で、カラーリングも指摘、さらには眺望権の独占や、高さ制限にも意見が及んでいる。

このことから、この地区の景観に対する、市民の関心

の高さが伺える。

また、スカイラインのイラストは大変判りやすく、好評であった。

このように、我孫子の景観を外側から考察する試みは、昨年の利根川クルージングを含め、景観研究に有力である事が立証されたので、東側、北側にも広げていきたい。

「我孫子バスツアー」は、

「ウォーキング」が我孫子地区の一部、「クルージング」が手賀沼で、市の西半分偏っていることから、市の全域をウォッチしようと計画された。メインテーマは、当然まちなみである。ウォーキングは「線」、「クルージング」は面、そしてここでは「点」すなわちスポットである。

東の布佐平和台、中央の湖北台、西北のつくし野のまちなみ(この3箇所は、過去に景観奨励賞受賞)を比較考察しつつ、歴史や原風景も押さえようとした、欲張りな計画であった。

当日は、窓の曇りと雨滴で、車窓風景は思うにならず、下車すれば傘で、悪条件であった。加えて、タイムオーバーへの参加者の不満も出るなど、担当者にはご苦労をおかけした。

参加者は、総勢23名で、バスは、市の福祉バスを使用した。

感想の主なものを上げると

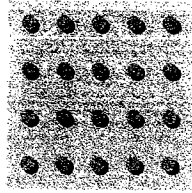
「景観的には」

- ・ 利根川対岸からの我孫子(布佐)の景観と、布佐平和台の2段植栽のまちなみが、評価されていた。
- ・ 久寺家、宝蔵寺石段上からの、まちの北側景観に新鮮さを覚え、北側景観の大切さを認識した。
- ・ 手違いから、日立研修所付近の観察が出来なかったことが残念。これは、直前に行われた、研修所内開放の余韻からきている期待感かと思われる。

「運営面」

- ・ バスの中で、みんな感想を話し合えれば良かった。
- ・ あびこガイドクラブの人の、質問に対する説明が良かった。

等であった。バスツアーの成否もまた天候に左右されるが、大抵の場合は、雨天をあまり考慮しない。たとえ降っても



バスの中だから大丈夫、という訳である。窓ガラスが曇ることなど、誰が予想しただろうか。

お天気さえ良ければ、3コースともに万万歳というのが、こういう企画の宿命である。

狙いと、コースは間違っていないので、多少手直しをして、再度試みたい。

「我孫子の景観再発見」は、四幕もので構成した。

・ 我孫子の原風景を訪ねる【昔の我孫子のここは何処】

昔の我孫子の、町や自然や人々の写真を残す活動をしている「みんなのアルバム同好会」の皆さん、貴重な写真を提供された教育委員会の協力、会員中島さんの仲介で、90枚の写真を展示できた。

これらの写真の大半は、「みんなのアルバム同好会」が長い時間をかけて、集めたもので、それを年代、場所説明と共にパソコンに取り込み、展示作品に仕上げたものだ。このストックのベースががなければ、この企画は実現しなかった。また、市の都市計画課においても、一部パソコンによる画像処理をお願いした。

自然、道、街と分けられたパネルの前で、大勢の人々が昔話に花を咲かせ、また往事の我孫子の顔に感嘆の声を上げる、そんなシーンが見られた。

戻らない昔の景観ではあるが、これからのまちなみ景観を考える上で、貴重な教科書になるであろう。

・ 我孫子の日常景観を掘り起こす【今の我孫子のここは何処】

手賀沼や史跡等、我孫子の代表的（と言われている）景観ではない、何処にでもあるような景観に、敢えてスポットを当ててみた。人々が、意識しないで見ている景観、見過ごしている景観、これが日常景観なのである。このパネルの狙いは、白砂青松や、水があっただけが景観ではないのですよ、ということを訴えているのである。そう、ここでは景観「観」は、人々の意識の変化に伴って変わっていくことの実験をしているのです。

「えっ、ここ我孫子?」「こんな素敵などころ何処にあるの?」「そうそう、ここは以前から気に入っていたところだ」、こんな会話が弾んだ。

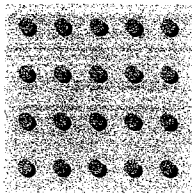
これらの場所は、坂道ウォッチングやグループFのフィールドワークの折に、気になっていた景観をとりあげた。撮影は、我孫子市在住の元プロの広告写真家、水津洗一郎氏に実費支払いだけでお願いした。24箇所、48カット、A4カラー横位置。（撮影総カット数は225カット）

・ 電線類地中化を考える【見上げてごらん我孫子の空を】

乱立する電柱と、空をぶつ切りにする電線の存在は、まちなみ景観の上に、大きく申し掛かる。先進諸国の中でも、日本の電線類地中化率は極端に低い。ロンドン、パリ 100%、ニューヨーク 72%に対して、東京 23 区 3%、全国 10 万人以上の都市の市街地 1%という状況である。これらの事実と、国土交通省の施策を図やグラフで紹介した。来場者の度肝を抜いたのは、その後続く我孫子市の電柱・電線景観と、それらを取り除いた美しいまちなみ景観の出現であった。布佐、青山台、つくし野の緑の多い住宅地、天王台、ふれあいラインの商店街、国道 3 5 6 号線、新木野の坂や白山、高野山からの手賀沼俯瞰、新木南斜面からの沼南町遠望等 2 4 シーンを展示したが、中には外国のまちなみかと、見紛うばかりの景観も現れた。

大勢の来場者の中には、福島市長、今関教育長、渥美アビスタセンター長の姿もあった。福島市長は、電線類地中化のテーマに対し、大変興味を示し、じっくりと見て回られていたのが、印象的であった。午後のパネルディスカッションでは、公園坂通りが一方通行になった際は、歩道を広げその電線類を地中化したい、との発言があり、タイミングの良さに驚いたりもした。また、渥美センター長は、電線類地中化と共に、商業用のぼり旗が消えた、つくし野の写真にも関心を示し、同じくパネルディスカッションにて、市が共催の「青空散歩市」と「バードフェスティバルの」のぼり旗は、景観上好ましくない旨の見解を示した。大いに意を強くした次第である。また、懸案のワークショップとパネルディスカッションとの、有機的な連携も果たせた。これらの作品は、次のようにして制作された。

日頃、電柱・電線が煩いな、と思っていた場所を、デジタルカメラで撮影してもらった。電柱・電線を取り除いた後の景観を意識した、素晴らしい作品であった。つぎに、撮影データをパソコンに取り込み、電柱・電線を除去する作業を行う。除去した後の空白の処理（空なら同じ空の色を、樹木ならその樹木の肌色を伸ばしてきて、空白を修復する）が最も技術のいるところで、美術作品の修復・復元の作業に通ずるところがある。この難作業は、小規模福祉作業所「i工房」にお願いした。「i工房」はパソコンを駆使した、ビジュアル作品の制作が得意で、この作業は photo shop というソフトを使用した。制作費は抑えてもらった。また、作品の一部は市の都



市計画課も担当した。

・ 都市景観を考えるコーナー

「都市景観の日」が10月4日（とし、何と単純な発想か）に定められており、国土交通省監修のパンフレットが出来ている。ここでは、そのパンフレットを素材として、1 都市景観施策の考え方、2 都市景観形成に資する規制・誘導方策、3 主な都市景観形成事業制度、について、我孫子市の施策の現状を紹介した。例をあげると、地区計画設定地区、緑地保全地区、生産緑地地区などの紹介、公園事業、景観市民会議による提案書「ハケふれ21」の紹介等だが、堅い内容なのでパネルに迫力を出せず、展示側の思いが伝わらなかったことは残念であった。

・ ビデオで我孫子再発見

ホールと第2学習室にて、我孫子ビデオクラブの力作「我孫子の四季」「我孫子空中散歩」を時間中エンドレスで放映。特にホールでの大画面は迫力があり、作品もこの大画面を十分に活かしたグレードの高さであった。ホールは10時から12時まで、第2学習室は10時から16時まで実施した。我孫子ビデオクラブの、全面的な協力を得たものである。

・ 市民参加と景観

【告知について】

告知は十分とは言えなかった。市側は、ポスター（「我孫子の景観を育てる会」織田会員制作）、チラシを制作し、「広報あびこ」での告知掲載を行った。

ポスターは、行政サイドでは広く貼付されず、良い出来映えだっただけに、残念であった。

チラシは、ウォーキング、クルージング、バスツアーの呼びかけに、紙面の大半を使っているため、申し込みが締め切られた時点で、無用のものになってしまった。そこで、第二弾として、アピスタへの集客チラシが必要となった。そこで、急遽「我孫子の景観を育てる会」にて、「12月7日、アピスタ、シンポジウム（景観の玉手箱と誇張）」をアピールするチラシを作成し、会員の人海戦術で配布、最後は我孫子駅、天王台駅、布佐駅にて駅頭チラシ配りも行った。

【会場について】

大ホールは、設備や機器類も新しく、また広さも手ご

ろで、靴脱ぎを除けばまあまあか。

2階学習室には、展示会場としては、二つの難点があった。

- ・ そもそも2階には、各学習室の利用者と、ホールで勉強する学生しか上がっていかない。しかも、一階ホールなどに、2階での展示催しのサインを掲出できないため、一般の人には、2階会場の存在がわからない。一階には壁に電子表示板があるが、これは会場利用者（申込者）、つまり「都市計画課」としか表示されないから、そこで何をやっているのか判らないので、全く意味が無い。申し入れたが、直せないとのこと。というわけで、2階への集客は至難の技であった。

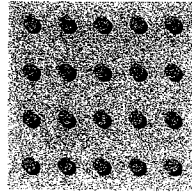
- ・ 一階の工作室をまちづくり交流会に、というので、残りの2階第2第3学習室を使うことにしたが、学習室は学習室だ。重たいボードの組み立て、模造紙貼り、取り扱いにくい両面テープの使用など、事前にわかっていた事ながら、苦労した。

それでも、「我孫子・男の井戸端サロン」「景観づくり講座Ⅱ期生」の応援を得て、四時間の苦闘で準備は終わった。撤収もまた、前述二団体の協力にて、無事に終了した。

【おわりに】

今回のシンポジウムは、初めての試みである、市と市民団体「我孫子の景観を育てる会」（以下会と呼ぶ）の共催で行われた。会としては、基調講演、パネルディスカッションの人選から構成、ワークショップの企画、展開、実施に至る、主要部分をすべて担当した。これにより、従来の壇上の先生が話すのを、参加者が席で聞いているのみの形から、大きく変身し、フィールドワークを含め、極めて立体的な構成となった。また、参加者の視点を重要視し、フィールドワークにおける、景観評価チェックリストも貴重な情報になった。

そこで結果であるが、雨中でのアウトドアイベント、設定がぶっつけ本番のインドアイベント、共にひとつの事故も無く、この催しを終えられたこと、イベントなるものはそれだけで成功と言える。しかし、特筆すべきは、各パートの担当者、協賛団体の皆さん、都市計画課の担当者の熱意と実行力が、行政と民間の温度差を乗り越えて、このイベントを成功に導いた事である。6ヶ月の短い期間で、これだけの事を成し遂げたことは、会の今後の活動に、大きく役立つものと信じる。



担当者から一言

手賀沼クルージング

梅津 一晴(会員)

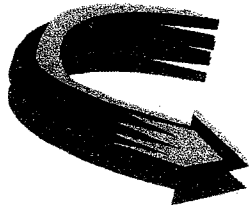
遊覧船の窓越しに見る風景は、ガラスに付着する小雨の水滴で十分な観察が出来ませんでした。回収できた景観チェックシートは21枚と参加者の熱意あるご協力を得ることが出来ました。寄せられたご意見に基づいて報告します。

チェック項目は斜面林、樹木、水辺の自然項目と、住宅、大型建築物の建物項目に分けました。

自然項目は良いの評価が多くありました。これは我孫子の自然が大切に保存されていることを示すものと喜ばしく思う反面、自然景観保全活動は会の今後の課題と思いました。

建物項目は斜面のマンション、各地の古い社宅、マンション、無計画に建てられる一般住宅の形態、屋根の色にマイナス評価が、ガソリンスタンド、倉庫、看板、船着場などには原色色彩の不快感を指摘する意見がありました。

眺望権の独占についての疑問は、高層マンション、斜面利用の宅地に向けられました。ウオーターフロントでの高さの制限の提案もあり、国立市の景観裁判と併せて我孫子での景観問題でもあると実感しました。



我孫子ウオーキング

高野瀬 恒吉(会員)

「美しい街並」は周りの品性を高めるものである。では「我孫子の街並」はどうであろうか？おりしも「景観シンポジウム」が開かれ「美しい街並」がテーマとなって、ワークショップには「街並ウオーキング」が取り上げられ、足を使って景観を肌身で確かめることになった。

ポストに街並班が当てられたが何しろこのようなことは初めての仕事であった。与えられたウオーキングには範囲と時間の制約があったので、コースの選定に苦労した。ウオーキングの結果は、出来ればパネルディスカッションに反映させたいとの下心をもって企画したのであった。

したがって、ウオーキングの中味は、

- ① 駅南口区画整理に総工費百数十億円と二十数年の歳月を費やして出来た駅前通商店街の街並イメージと現実とは？
- ② 新興の手賀沼ふれあい通りと旧356号商店街の街並の違いは？
- ③ ハケの道の歴史的景観の価値は？
- ④ 歴史ある白山住宅街と開発ブームで生まれた若松住宅街を比較すると？

当について其の功罪と評価をいぶり出すことを考え

た。評価には、直感で書く「チェックシート」で行うことを考え、予め案内書やコース案内図をも準備して待っていたが参加の応募者は11名であった。一時は拍子抜けしたものの、ガイドクラブや井戸端会議の方々のご尽力により当日の参加者は20名近くまでに漕ぎ着けた。しかし、天は我に味方せず、朝から雨模様となり、午前8時、中止宣告のやむなきにいたった。

雨に流されたとは言え参加予定者に配送されたウオーキング資料は参考になったと聞いて、挫折感は払拭することが出来たのは幸いだった。

さて、今回チェックシートを作ってみて、「街並景観の評価」は多様で中々難しいものであると痛感した。また内容的には、ちょっと欲張りすぎて観察の時間にゆとりが無く、シートの書式も、記入しがたいものであったと思われた。次回にやる時は「観察の対象範囲」を絞って「観察の時間にもゆとり」をとり、チェックシートはもっと「実感を素直に記入し易い」システムを考えたら！と、反省される。

最後に、今回の担当企画推進にあたりガイドクラブ・井戸端会議や役所の方はじめ皆様方のお力添えを頂いたことに更めてお礼申し上げます。